

小松市埋蔵文化財調査だより

第6号 1996.3.29

小松市教育委員会 〒923 石川県小松市小馬出町91番地
埋蔵文化財調査室 TEL (0761) 2 2 - 4 1 1 1



二ツ梨一貫山古窯跡の土師器焼成土坑（写真は25号土師器焼成土坑）

二ツ梨一貫山古窯跡からは、奈良時代後半頃の土師器焼成土坑が計28基発見されました。これは多くの土師器焼成土坑が一つの遺跡で見つかったのは北陸では初めてで、群集して営まれているのがこの遺跡の特徴と言えます。

さて、土師器とは、酸化焰（赤い炎）で焼いた肌色の軟質の土器で、大体700～800度程度で焼かれたと予想されています。土師器焼成土坑とは、この「土師器」を焼いた土坑（穴）のことで、窯のように燃料を焚く場所と焼き物を焼く場所は分かれていません。土坑内に薪燃料を置き、その上に製品を置いて、藁等の補助燃料で覆って焼きます。窯のように天井などはありませんが、泥や湿った草などで覆って焼くため、保温効果があり、少ない燃料で高温を保つことができます。

この技術は弥生時代に中国大陸から伝えられ、

日本全国に普及しました。その後、技術改良されて焼成土坑を伴うようになり、この改良された技術は、古代には主に東日本に広まりました。



二ツ梨一貫山古窯跡の土師器焼成土坑群

平成7年度の埋蔵文化財発掘調査

や さとむかいや まい せきぐん 八里向山遺跡群の調査

所在地 小松市上八里町・下八里町地内

調査期間 平成7年4月10日～継続中

調査面積 約6,000㎡

原因 住宅団地造成事業（民間）

遺跡の概要 遺跡は、小松市の北縁、寺井町との境界をはしる東部丘陵地に位置しています。北の寺井町側丘陵地は、すでに泉台住宅団地として開かれており、梯川の支流鍋谷川に面する丘陵南縁、つまり小松市に含まれる部分がかろうじて自然地形を残していました。鍋谷川によってひろけた平野を望むかたちで多くの尾根が並び、その尾根ごとに集落遺跡や古墳群などが営まれています。

八里向山遺跡群は、平成4年に住宅団地造成に先立つ遺跡の分布調査で発見されました。A～Hの合計8つの遺跡からなり、旧石器時代・縄文時代・弥生時代の各集落、古墳群や古墳時代後期の竪穴、さらに奈良時代の建物など極めて多様な内容で、しかも、これらは1つの尾根でも複数重なって発見されています。

調査の概要 平成7年度は3年目の調査で、B遺跡とH遺跡、A遺跡の一部（A'遺跡）の調査が完了し、F遺跡の調査に着手しました。H遺跡は、A遺跡のすぐ南側に接した谷部にある湧水地遺跡です。現在でも水が湧き出ており、その水源周囲から弥生時代末（西暦200年頃）の土器が多数出土しました。A遺跡は同じ時代の集落跡ですが



八里向山遺跡群の位置 (1/25,000)



八里向山遺跡群遺跡分布図



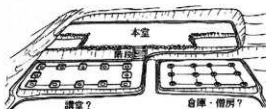
B遺跡の「山寺」跡全景



本堂前面の段を縁取る石垣

ら、当時の住人がここで水を汲んで生活していたことがわかります。A'遺跡は、A遺跡の東側隣接地で、遺物はほとんど発見されませんでしたが、古い道路跡と思われるものが発見されました。B遺跡は、丘陵の南端にあり、南側直下に鍋谷川を望む狭い尾根上に位置しています。本遺跡の中心は、平安時代初期（西暦800年頃）の寺院跡と考えられる遺構です。まず、尾根頂上に近い斜面に上2段の広い平坦面が造成されます。下段には、排水溝で区画された掘立柱建物2棟が左右に整然と配置され、その背後にひかえる上段には、本堂にあたる荘厳な礎石建物が建立されていたようです。（ただし、調査時には礎石は失われていました。）上段前面は石垣で縁取られ、その

中央には下段からの階段も設けられていました。このような寺院は、人里から離れた山中にひっそりと建てられていることから、「山寺」とも「山間寺院」とも呼ばれています。僧侶が山林修行を行うのにふさわしく、写経や説経にはげみながら、寺院建立のうしろだてとなった家族の無病息災などを祈禱する密教的性格の強いものであったと考えられます。遺物としては、当時貴重品であった



B遺跡「山寺」跡の建物配置図（一部復元）

ようかいちじかたいせき 八日市地方遺跡の調査

所在地 小松市日の出町地内

調査期間 平成7年4月3日～継続中

調査面積 4,200㎡

原因 土地区画整理事業

遺跡の概要 八日市地方遺跡は、JR小松駅の東側に位置し、約78,000㎡の範囲に広がる弥生時代中期の集落跡です。一体は低湿地で、近年まで水田や蓮田として利用されていました。

遺跡は、昭和5年に水田から2個の石器が採集されたことが発端となって発見され、その後、昭和25年と同36年に小規模な発掘調査が行われました。この時発見された土器には、櫛掻紋と呼ばれる弥生時代中期に盛んに用いられた紋様が描かれており、「小松式土器」と名付けられました。



木製農具(鋤)の出土状況

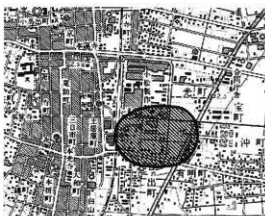
三彩（3色の釉薬をかけた陶器）の小壺をはじめ、灯明に用いた坏などが出土しました。

B遺跡ではこの山寺跡の他に、今から約1万5千年前の石器や、縄文時代早期（約8千年前）の土器が出土しています。



B遺跡縄文時代早期の集石

土器の方は、「集石」と呼ばれる真つ赤に焼けた大量の河原石を一つ所に集中させた遺構に伴って出土しました。集石は食料の蒸し焼きや、バーベキュー料理等の施設とする説もありますが、実際の用途は今のところ不明です。



八日市地方遺跡の位置（1/25,000）

小松駅東土地区画整理事業に伴い、平成4年に遺跡範囲確認のための分布調査、引き続き平成5年からは発掘調査が行われています。

調査の概要 今年度の調査で、集落の北部を東西方向に流れる大きな河川の跡が見つかり、その堆積層から大量の土器や木製品が出土しました。

この河川からは、バンケースにして300箱以上の土器が出土しました。櫛掻紋をもつ土器をはじめ、東海地方・山陰地方等、他の地域の影響を受けてつくられた土器、鹿と狩人を描いた絵画土器やミニチュア土器等も見つかっています。

木製品は、工具・農具（左の写真）・紡織具・漁撈具・食事具・容器・武器・祭祀具・部材等いろいろなものが出土しています。今のところ、水

田の跡は見つかっていませんが、多量に出土した農具や、炭化米の存在からも、この集落で農耕が行われていたことが想像できます。他に、鳥形木製品や剣・刀形の木製品も出土しています。これらは、絵画土器・ミニチュア土器とともに、祭祀に使われたと考えられます。

また、河川内からはイノシシの骨やトチ・クルミ・ドングリ等の木の実、炭化米等も出土しており、当時の人々の食生活が伺えます。

河川の跡以外では、土器や木器の他に、碧玉という緑色の石で作った勾玉や管玉、翡翠の勾玉等の玉類も多数見つかっています。作りかけの玉類・木製品の出土や、穴の中に残された原石・石片・木材・木屑等から、この集落で玉類や木製品が製作されていたことは明らかです。出土した玉類や木製品はどれも精巧に作られており、これらを製作した人々の高度な加工技術が想像できます。



方形周溝墓

その他に、井戸（溝で囲まれた区画内）・住居・方形周溝墓（上の写真）等も見つかっています。八日市地方遺跡は、居住区・工房・墓域等を備えた、この地域の中核的な集落だったと考えられます。

吉竹遺跡の調査

所在地 小松市吉竹町地内

調査期間 平成7年7月6日～継続中

調査面積 2,925㎡

原因 土地区画整理事業

遺跡の概要 吉竹遺跡は、木場沼の北東方向に位置し、過去に木場沼の一部だったと思われる低湿地の部分と、その低湿地に臨む台地の部分からなります。とくに、台地の部分には弥生時代後期から古墳時代に営まれたと考えられる集落の跡があり、地面を掘りくぼめて造った竪穴住居の跡や、柱穴の跡と考えられる小さい穴（ピット）等が集中して見つかっています。



吉竹遺跡の位置 (1/25,000)



円形の竪穴住居跡

調査の概要 吉竹遺跡の調査は、3年間にわたって行われる予定で、その1年目にあたる平成7年度は、現在畑となっている台地の部分で約1,100㎡、水田となっている低湿地の部分で約1,800㎡の調査を行いました。

台地の部分では、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落の跡が見つかり、上から見た形がほぼ円形の竪穴住居の跡（左の写真）が検出されました。この住居は、4本の柱を持っていたと思われる、中央には炉の跡と考えられる穴がありました。また、角が丸い四角形の竪穴住居の跡（次ページ右上の写真）も見つかりました。おそらく次ページ左上の図のような建物が建っていたと考えられ



竪穴住居 復原図

ます。その他には、地面に直接柱を埋めて建てる掘立柱建物の跡が約10棟見つかりました。遺物としては、甕や壺といった弥生土器・土師器（古墳時代の素焼きの土器）等が出土しました。中には赤く塗られた壺もありました。

低湿地の部分では、昔の人が掘りこんだ穴や溝の跡は少ししか検出されませんでした。しかし、

弥生時代や古墳時代の土器、平安時代のもと考えられる須恵器（青い色をした、素焼きの土器より硬い土器）、珠洲焼・越前焼といった中世の陶器などが出土しました。また、中国よりもたらされた中世のお金も2枚見つかっています。



角が円い四角形の竪穴居跡

額見町遺跡の調査

所在地 小松市額見町地内

調査期間 平成7年9月20日～継続中

調査面積 約5,500㎡

原因 土地区画整理事業（工業団地造成）

遺跡と調査の概要 額見町遺跡は、月津台地の北西端に位置する飛鳥時代から平安時代末期まで営まれた集落で、約250,000㎡の範囲に広がる大規模な遺跡です。発掘調査は、遺跡総面積の15%にあたる38,000㎡を対象としており、今年度はその内5,500㎡の調査を行いました。

今年度は主に、遺跡上面に存在する近世の畝溝や建物跡の調査を行いました。本格的な調査は次年度からですが、今年度の調査で、遺跡は飛鳥時代から始まり奈良時代までが最盛期だったこと、平安時代に一時衰退するが、平安時代末期に再び栄えることが確認されました。また、飛鳥時代頃の遺物の中には、一般の村落では出土しない陶製の棒杵の杵や陶製の硯、陶製の紡錘車等がありました。その他、製鉄鍛冶に伴う鑊の羽口や鉄滓も多量に出土しています。このような遺物の存在は、上級村落を連想させるものであり、遺跡の立地から、官宮の施設の可能性も考えられます。今後の調査が楽しみな遺跡です。



額見町遺跡の位置 (1/25,000)



陶製棒杵の杵出土状態

ふたつ なしっかんやま こうようせき
ニツ梨一貫山古窯跡の調査

所在地 小松市ニツ梨町地内

調査期間 平成7年4月3日～8月11日

調査面積 1,987㎡

原因 自動車博物館建設

遺跡の概要 小松市の栗津周辺から加賀市の分岐付近までの低丘陵地帯は、古代から中世にかけての製鉄遺跡、製陶遺跡が密集する地域で、その規模は北陸最大と言われています。これらの製鉄・製陶遺跡群は「南加賀古窯跡群」と呼ばれており、ニツ梨一貫山古窯跡も、この一角を形成する製鉄・製陶遺跡です。

調査の概要 今回の調査では、製鉄、製陶どちらの施設も発見されています。まず、製鉄遺跡ですが、砂鉄製錬に伴う溶鉱炉の排滓場1ヵ所と製鉄に伴う長方形土坑2基を調査しました。長方形土坑は、製鉄に伴う炭焼きの窯跡、または、砂鉄精錬に伴う溶鉱炉跡の可能性がありま。いずれも、奈良時代中期から後期にかけての、製陶遺跡が営まれる以前の遺跡です。



ニツ梨一貫山古窯跡の位置 (1/25,000)

次に、製陶遺跡ですが、主に須恵器という陶器質の硬質な焼き物を焼くトンネル状の窯が多数築かれています。残念ながら、今回は窯本体の調査は行えませんでした。焼成失敗品を廃棄した灰原を8ヵ所調査しました。奈良時代後期のものが主ですが、平安時代前期・中期のものもあり、長期間にわたって継続的に製陶作業が行われていたことが伺えます。また、冒頭でも述べたように、今回の調査で奈良時代後期の土師器焼成土坑が28基発見されました。この中に、土坑の側壁沿い底面に溝を掘り、土器で蓋をした暗渠排水溝をもつ焼成土坑が4基ありました。このような施設は、



須恵器の暗渠施設をもつ11号土師器焼成土坑

除湿用の施設と思われますが、一般的には須恵器窯の施設で、須恵器の窯作りの技術が導入されたものと言えます。全国に数百基存在する土師器焼成土坑の中でも、このような施設をもつものは確認されておらず、このニツ梨一貫山古窯跡唯一のものであり、須恵器の窯作りに従事する職人が築いた土師器焼成土坑であることを物語る資料として注目されます。

また、今回の調査で注目されるのは、粘土採掘坑の発見です。粘土採掘坑とは、須恵器や土師器製作の際の生地粘土を採集するために掘った穴で、径2～3m、深さ1～2mの堅穴が、連続して11基掘られていました。時期は、採掘坑内に大量廃棄された須恵器・土師器から判断して、平安時代中期に位置付けられます。採掘坑は富山県では多数見つかっていますが、県内での発見は初めてで、須恵器・土師器を製作していた専門職人達のアトリエがすぐ近くにあったことが想像できます。長期にわたる製陶コンビナートの拠点が、当地に存在したことを連想させるような資料といえます。



粘土採掘坑とその中に捨てられた大量の土師器

しま い せき
島遺跡の調査

所在地 小松市島町地内

調査期間 平成7年10月11日～継続中

調査面積 180㎡

原因 下水道汚水管埋設工事

遺跡の概要 島遺跡は、木場湖の南西に位置する標高8～9mほどの低い台地上に営まれた集落跡です。台地の南側は既に掘削により破壊されていますが、現状で約10,000㎡ほどが残っています。昭和58年に、一部333㎡が発掘調査されており奈良時代の遺構・遺物が確認されました。



島遺跡の位置 (1/25,000)



竪穴内の遺物出土状況

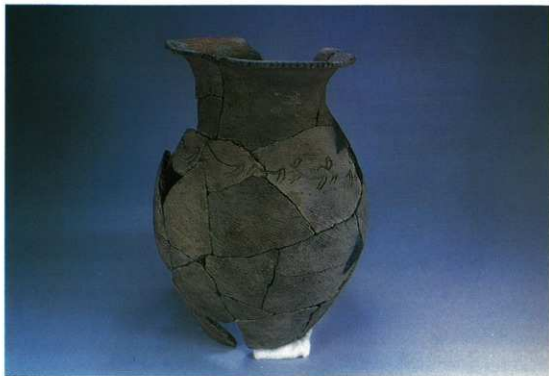
調査の概要 今回の調査は下水管を埋める農道部分のみでしたが、遺跡のはほぼ中央部に南北に走る谷があることがわかりました。その谷の東は特に遺構が密集しており、住居跡と思われる竪穴5基を発見しました。特にその中の1基から、製鉄鍛冶に伴う鑄の羽口や多量の鉄滓がまとまって出土し、付近に製鉄跡や工房跡の存在が想定できます。また、奈良時代後半の須恵器・土師器も狭い調査範囲の割には多量に出土しており、一般集落とは多少異なる性格を持つ遺跡と考えられます。

平成7年度 埋蔵文化財調査事業一覧

発掘調査	遺跡名	所在地	調査期間	原因	時代	面積㎡
	八里向山遺跡群	上八里町地	4月10日～継続中	住宅団地造成事業 (民)	旧石器～奈良	6,000
	八日市地方遺跡	日の出町	4月3日～継続中	土地区画整理事業 (市)	弥生	4,200
	吉竹遺跡	吉竹町	7月6日～継続中	土地区画整理事業 (民)	弥生～古墳	2,925
	額見町遺跡	額見町	9月20日～継続中	工業団地造成事業 (市)	奈良～近世	5,500
	ニツ梨一貫山古窯跡	ニツ梨町	4月3日～8月11日	自動車博物館建設 (民)	奈良～平安	1,987
	島遺跡	島町	10月11日～継続中	下水道管埋設工事 (市)	奈良～平安	180
分布調査	開発行為名称	所在地	開発面積㎡	調査日	備考	
	工業団地造成事業 (市)	額見町	318,000	5月30日～6月1日	額見町遺跡の分布を確認	
	土砂採集事業 (民)	那谷町	1,167	7月18日	埋蔵文化財は確認されず	
	用地取得 (民)	林町	1,824	8月17日	既に掘削されており遺跡は確認されず	
	農業集落排水事業 (民)	波佐谷町	607	8月22日	埋蔵文化財は確認されず	
	土砂採集事業 (民)	額見町	3,800	8月23日	遺跡の存在を確認	
	お茶室建設事業 (市)	丸の内公園町	120	9月13日	小松城に伴う遺物を確認	
	宅地造成事業 (民)	草野町	6,518	1月13日	埋蔵文化財は確認されず	
	土砂採集事業 (民)	八幡町	1,196	2月21日	埋蔵文化財は確認されず	
	体育館整備事業 (市)	長田町	3,887	3月26日	遺跡の存在を確認	

(市)は市営事業、(民)は民間事業を示す。

小松の重要遺跡・遺物 ⑥



かいが どき ようかいじかたいせき
絵画土器 (八日市地方遺跡出土)

八日市地方遺跡の河川跡から、弓を持った狩人と鹿を描いた絵画土器が出土しました。口径約17cm、高さ28cmの壺の肩の部分を一週するように描かれています。鹿は確認できるだけで10頭、破片が見つからない部分も考えると、おそらく11頭いるようです。

絵画土器は日常生活ではなく、まつり等特別な場で使用されたと考えられています。弥生時代には大陸から稲作技術が伝わり、自ら食料を生産するようになりました。これによって主な食料を得る人々にとって、作物の豊かな実りを願うまつりは重要な行事であり、盛んに行われたことでしょう。鹿は、絵画の画材としては最もポピュラーなもので、土器の他、銅鐸にも描かれています。当時豊かな食料の象徴と考えられていたと思われます。

また、同じ河川跡から、鳥形の木製品が3点見つっています。鳥は稲の霊を運ぶ天からの使者

であり、鹿と同様に豊作をもたらすものとして、まつりの場に登場しました。

これらのものから、この集落でも稲作が行われていただろうことや、人々が豊かな実りを願ってまつりを行ったことがうかがえます。



鳥形木製品